



# 越部小だより



## 春の訪れと新たなステージに向けて

～1年間のまとめを意識させたい～

「鬼は外、福は内！」元気な豆まきの声がる2月の節分。今年は、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出される事態の中、学校での節分集会等もできず、静かな節分となりました。

節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前の日を言いました。今では、豆まきの風習が残っている2月の立春の前の日だけを言うようになりました。今年は、1897(明治30)年以來124年ぶりに2月2日になりました。地球が太陽を1周する時間は365日ぴったりではなく、6時間弱長い。そのため、毎年少しずつ地球の位置がずれていき、節分の日も2月3日になったり2日になったりするそうです。

2月3日は立春。立春とは、春が立つと書きます。初めて春の気配が現れるという意味です。旧暦では、この頃が1年の始まりでもありました。2月は寒さがまだまだ厳しい季節ですが、立春、初春、早春、梅、など春の訪れを感じられるような言葉もあります。如月(きさらぎ)という美しい旧暦の月の名前もあり、寒くて衣(きぬ)を更に着るという意味からついたという説もあります。静かな気持ちで自然と向き合うのに適した季節かもしれません。

子どもたちにも、1年間のまとめと次の学年(進学・進級)に向けての引き継ぎを意識させる2月としたいです。学校での学習・生活・行事や人との関わりを通して身についた力を子どもたち自身が実感できるまとめを工夫したいです。

私たち教職員も新型コロナウイルスへの感染予防と、子どもたちの学びの充実を考えながら進めてきた学習指導の振り返りを行います。その際には、保護者の皆様にご協力いただいた、「教育活動アンケート」の結果を活かしていきたいです。

子どもたちは、6月の学校再開以降、コロナ禍での不安や困難を抱えながら、懸命に学校生活を送っています。この時期、次のステージへ向かう不安が芽生えたり増大したりする時期でもあります。眠られない、起きられない、落ち着かないなどの心身の状態に留意しつつ、しっかりと見守り、不安の解消にも努めていきたいです。

2月を1年間のまとめと引き継ぎを意識し、子どもたちの次のステージに備える月としていきます。

## 学校でのコロナ対策

～新しい生活様式の定着へ～

コロナ禍の中、学校で取り組んでいる感染予防対策を改めてお知らせします。子どもたちも教職員も意識して徹底に努めています。



### ① マスク着用

- ・マスクを外している時間をできるだけ短くする。
- ・給食時は、静かに食べる。机は前向きにする。
- ・休み時間も、登下校中もできるだけ着用する。  
(呼吸が激しくなる活動時以外の着用)

### ② 手洗い、手指消毒

- ・外から教室へ入る場面での手洗い
- ・教室の入り口に手指消毒液の設置

### ③ 密になる場面をできるだけ少なくする。

- ・机の間隔をできるだけあけて学習する。

### ④ 換気

- ・授業中は、対角のドアや窓を少し開けておく。
- ・休み時間にはしっかりと換気する。

### ⑤ 健康観察 (児童・教職員)

- ・健康観察カードと検温のチェック

### ⑥ スクールサポートスタッフさんによる、共用部分やトイレ等の消毒作業(毎日)

### 〈緊急事態宣言下での活動の制限〉

#### ⑦ 感染リスクの高い活動の回避

- 児童が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等

- 近距離で一斉に大きな声で話す活動(音楽)

- ・飛沫が飛ぶ活動の制限

(合唱、リコーダー、鍵盤ハーモニカ)

#### (体育)

- ・児童が密集する運動

- ・可能な限り屋外で行う

- ・運動を行っていない際は、可能な限りのマスクの着用